

命を守る乳がん検診

コロナ禍の中、受診呼び掛け

近江八幡駅前で街頭啓発

乳がん患者会「あけぼの滋賀」

乳がん患者やその家族、医療関係者らでつくる「あけぼの滋賀」は1日、JR近江八幡駅前

で乳がん検診を呼び掛ける街頭啓発を行った。同会は毎年、母の日



近江八幡駅前街頭啓発を行う、あけぼの滋賀の会員

に「乳がんから命を守るろう」をスローガンに啓発活動を行っているが、コロナ禍の影響で昨年度の乳がん検診の受診率が低下したことを受け、今後、早期発見、早期治療が遅れることを憂慮。コロナ禍であっても命を守る受診の大切さを訴えようと、ことしは県内4か所を巡る「びわ湖乳がん啓発ウォーク」を初めて計画したが、初日の5月9日に実施する予定だった大津市内での啓発は、コロナ禍の拡大で出来なかった。JR近江八幡駅前での街頭啓発には、県内

各地から会員16人が参加。駅南出口の連絡橋、北出口など4か所に分かれ、自己とマンモグラフィーによる検診で「乳がん死ゼロ」を呼び掛ける横断幕や「乳がんから命をまもろう！」ののぼり旗を立てかけて、検診を受ける大切さを訴えた。今回は、コロナ禍に配慮して啓発グッズの手渡しや声をあけての啓発は取りやめ、視覚に訴えた。

10月17日にはJR長浜駅前で、11月14日には高島市のマキノビックランドでの啓発を予定している。菊井津多子代表は「母の日に予定していた活動はコロナ禍で中止せざるを得なかったが、早期発見、早期治療で命を守る乳がん検診の大切を訴え、受診率の向上に繋じていきたい」と話した。

参加者募集

羊毛クラフト教室

県畜産技術振興センター

県畜産技術振興センターは8月17日、19日に開く「一日ふれあい牧場・親子羊毛クラフト教室」の参加者を募集している。参加費無料。

同教室は、4〜5月に毛刈りした羊毛を利用し、キーホルダーや